



会の告知板

7月25日(日) 第7回ウォーキングを楽しむ集いー武蔵嵐山巡り

8:00 東久留米駅中央改札口集合、菅谷館跡、蝶の里公園から嵐山溪谷へ

(詳細案内書-既配-参照)

* 次回(第8回)は9月23日(秋分の日)、「見沼代用水東緑巡り」を予定(詳細次号)

31日(土) 第7回映画鑑賞会

14:00開演 於 市役所市民プラザ

上映作品「心の旅路」監督 マーヴィン・ルロイ

主演 ロナルド・コールマン、グリア・ガースン

ー 第一次世界大戦末、戦傷で記憶を失った男に美貌な舞台女優ポーラが献身的な愛をささげついに男の記憶を取り戻す。マーヴィン・ルロイ得意のロマンチック珠玉編。



8月 1日(日) 定期役員会

13:30～ 中央公民館2F集会学習室

21日(土) カラオケを楽しむ集い

18:00～ シダックス東久留米店、前沢(滝山団地入り口)

(詳細添付案内書参照)

[大学・校友会関係]

10月24日(日) ホームカミングデー・稲門祭

本年の大学招待対象者は卒業後25・35・45・50年目の校友。恒例の福引抽選会も催される。

福引券販売中。未購入の方は事務局へ。

[部会スケジュール]

書道部会 例会毎月第2日曜日 13:30～16:30

9月2日(火)～8日(水) 第5回練成会 於 軽井沢

太極拳部会 毎週土曜日 10:00～12:00 成美教育文化会館1F

俳句部会 9月5日(日) 13:30～17:00 中央公民館2F第3集会学習室

兼題: 「葡萄」、「当季雑詠」 各1句

後続年間スケジュール: 10月31日(日)～11月1日 一泊二日吟行、

12月19日 例会兼忘年会

囲碁部会 毎月第4日曜日 13:00～16:30 成美教育文化会館3F和室

会の行事

定期役員会

6月6日(日) 13:30より中央公民館集会室にて開催。下記事項を承認/決議した。

① 第10回定時総会・懇親会収支:

(出席者 会員とその家族 67名、来賓 11名)

収入 324,000円 支出 240,054円 残高 83,946円

② 大学・校友会役員改選・選出

商議員 帆角信美、菱山房子、平山正徑

代議員 松崎博、平山正徑、安次峰暁、山岡恭子

稲門祭実行委員 平山正徑、河村洋子

③ 創立10周年記念行事の開催

・11月21日(日) 早稲田大学グリークラブを招聘し演奏会を開催。会場は成美教育文化会館大ホール。会員とその家族は無料。演奏会終了後懇親会開催(有料、自由参加)。

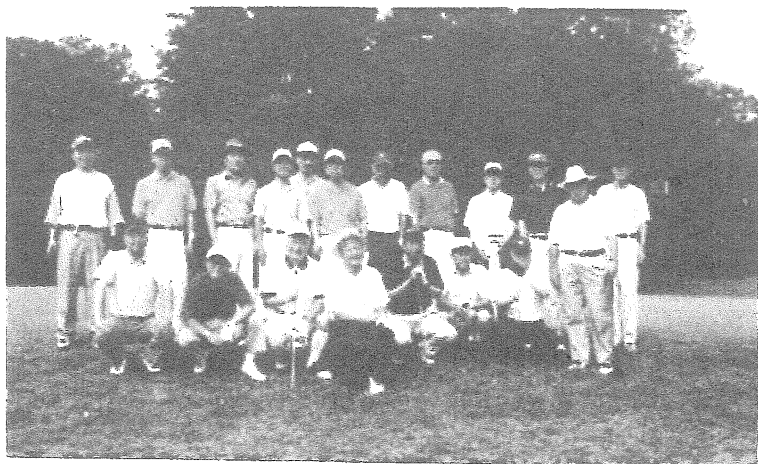
・実行委員長 松崎博

④ 本会主催イベント

ウォーキング会、カラオケを楽しむ集い、雑学塾、早慶戦観戦会などの日程決定。

東久留米稲門会 vs 東久留米三田会 ゴルフ対抗戦

6月18日(金)、東久留米の早慶ゴルフ対抗戦が、埼玉県大里郡の太平洋クラブ・江南コースで行われました。当会では当日予定を組んでしまった会員の方が多くて人数が集まらず、残念ながら7名(深澤さん、橘さん、太田さん、森本さん、川上さん、帆角さんそれに私)の参加となりました。一方の三田会は参加者が12名でした。プレーはダブルペリア方式で、稲門会、三田会の上位4名のネット合計で競いましたが、当会のポイントゲッターがいずれも調子悪く、終ってみれば、三田会が圧勝、しかもニアピン賞も4つとも全部三田会に持っていかれてしまいました。まさに第1回の対抗戦は当会の惨敗で終わりました。表彰式と懇親会は地元に戻って、駅西口の料理店“鮮乃庄”で開催、お互いに親交を深め、次回は11月に開催することを確認してお開きとなりました。次回はもっと多くの人達のご参加を以て雪辱を果たしたいと望むものです。(久家 政裕記)



東京六大学春季リーグ早慶戦観戦会

5月29日(土) 早慶戦第一試合を観戦。明大の優勝決定後の試合で、流石の伝統の一戦

もうひとつ盛り上がり、試合も2-7で敗戦。参加者はそそくさと神宮を後にし、この日夕刻より地元前沢で開かれた「カラオケを楽しむ集い」に合流した。

東久留米雑学塾(第13回)

6月6日(日)午後3時から中央公民館で第13回雑学塾が開かれた。講師は童話作家のはやしとかし氏、演題は「宇宙・地球・人間」だった。はやしさんは、想像もつかないくらい広大な宇宙の成り立ちから地球の誕生、さらに人間の誕生へとつらなる神秘的な関係を軽妙な語り口でわかりやすく説明し、宇宙における緑と水に覆われた地球の大切さ、そこに住む人間の行いの重要性を説いた。一般市民を含む45名余の聴衆が拝聴した。

大学・校友会の行事

代議員会

6月28日夕から早大校友会代議員会が井深大記念ホールで開催され、48万校友の代議員1200名が新たに選出された。当会代議員 松崎、平山、安次峰、山岡の4氏が出席。

夏季商議員会開催

7月3日(土)午後2時から早稲田大学総合学術情報センター・井深大記念ホールで夏季商議員会が開催され、当会商議員 帆角、菱山、平山の3氏が出席した。引き続いてリーガロイヤルホテル早稲田で開かれた懇親パーティに参加し、全国から集まった商議員や大学関係者と親しく懇談した。

部会便り

グルメ部会

第7回グルメ探訪 - 「狭山 翁」の手打ちそばを楽しむ

6月26日(土)、梅雨時で雨が心配されたが、幸い好天に恵まれ、西武狭山線の下山口駅から片蔭を求めながら、なだらかな坂道をゆっくり12分位上る。ひと汗かいて、まなかいにビールの泡がちらつくようになった頃、風格ある筆書きの「翁」の看板が目に入る。山梨長坂のそば打ち名人として有名な高橋邦弘さんの「翁」に弟子入りして修業した若主人が、



暖簾分けを許されて3年前に開いた店、「狭山 翁」である。

まずはビールで乾杯。塩豆をつまんでいると、焼き味噌、土佐漬、こだわりの黒豆のおぼろ豆腐が一つの盆でだされる。箸休めは山葵の頭の醤油漬、続いて茄子の冷やし煮付け、薄味で深みのある山掛け豆腐、あっさりとした上品なだし巻き玉子、海老や野菜の天ぷら盛り合わせ。これらが、店主お薦めの静岡の地酒・特別本醸造「磯自慢」や、そば湯割の焼酎によく合い、思わず杯のピッチが上がる。そして本命のざる蕎麦。国内産の蕎麦の実を毎日石臼で挽いて、丹念に打った二八そばで、のどごしの良さと豊かな香りで評判である。お代わりを注文する人もいて、流石と思わせる。デザートは冷たい自家製梅酒の寒天寄せ。

座席が狭いため、10人で一杯で、大勢が参加できなかったのは残念であったが、まずは味、ボリューム共に満足した土曜日の午後の一刻であった。（部会長 神田 尚計）

囲碁部会

今回の当部会のイベントは、碁会「稲穂会」への参加と、三地区（東久留米・東村山・西東京）対抗の囲碁親善対局である。

「稲穂会」は既報（前号）の通り、早稲田大学OB及び大学現役囲碁部員による囲碁会で、6月6日（日）、新学生会館で開催された。大会は人数制限があり、当部会には三名の枠が与えられ、実質二名が参加（一名は当日故障欠席）、日頃の研鑽の成果を披露した。

三地区対抗の碁会は、6月19日（土）東村山市民センターにて行われ、総勢20数名、当部会からも6名が参加、終始和やかな雰囲気で行われ、一日を過ごした。（部会長 辰己 徳蔵）

女性サークル部会

6月14日（月）、女性サークル部会では、明治神宮に菖蒲の花を観に行きました。花は盛りで、幸い天気にも恵まれて、楽しく観賞できました。その後体力のある人は本殿まで行き、疲れた人は入り口の鳥居の所の茶店で休んで待っていて、再び皆がそろったところでレストランで昼食をいただきました。女性会員のみの気楽さから話も弾み、散会となりました。又しばしこのような会を持ちましょうと皆で満足できた楽しいひとときでした。（部会長 石寺美弥子）



カラオケを楽しむ集い

5月29日、土曜日の午後6時から第一回“カラオケを楽しむ集い”が開催されました。

河村さんが世話人になり、滝山のシダックスと交渉して貰い、2時間の費用で2時間延長OKという特典付きでした。

当日は丁度早慶戦の第一回戦の日で、早慶戦の応援に行った会員も合流して総勢15人が集まり大盛会となりました。早慶戦は2-7で敗れ、その鬱憤を晴らすかのように全員よく飲み、よく食べ、かつよく歌いました。

オープニングは末松さんの「サントワマミー」で始まり、おしゃれな歌のムード溢れる

歌い方に対して拍手喝采でした。また、しばらく体調をくずして休んでおられた市川さんもお元気な姿を見せてくれて「青葉城恋歌」を歌われ、健康を回復されたことに全員から祝福の拍手を浴びられました。

時間が経つにつれて飲み放題のビール、ウィスキー、焼酎など、セット料理ではあるが食べ放題の寿司、やきそば、サラダなどを飲み、食べ、エンジンが掛かりカラオケの方も大いに盛り上がりました。予約のタイトルにもいろいろなジャンルの曲があり、全員がそれぞれ自分の得意なジャンルの歌を歌い、最後は時間の制約もあり、何曲かはカットされるほどでした。最後に全員で「都の西北」を大合唱して楽しかった4時間に及ぶ第一回“カラオケを楽しむ集い”の散会となりました。

大変楽しい時間を過ごすことが出来、全員大満足で次回は8月の終わりに第二回を開催しようということを話し合っただけそれぞれの家路につきました。(井坂 宏 記)

書道部会

「書」は一人で何時でも簡単に習うことが出来ます。昔使った書道具を引っ張り出し始めて見ませんか。書道部会は、毎月第二日曜日 13 時 30 分より 16 時まで中央公民館において開催しております。

最近パソコンが日常的に使われ出しメール交信が増加し、受け取る手紙や葉書も殆ど活字ですから手書きの筆文字を見ることが少なくなってきました。

こうした背景からか、周り中が活字だらけの生活は、殺風景で味気ないなどと言われ、今更ながら筆文字が見直されてきております。それは、活字の対極にある筆文字が使用されている手紙や掛け軸を見た時、手書きの文字の温もりを感じ取るからでしょう。また、字を書く機会が減ったため、文字が書けない、読めない、書けても下手だからという人も居るでしょう。

書道は「自分の字を書く」これが目的ですから最初の段階であり上手い、下手は関係ありません。どんなレベルの人でも自分の字には長所、短所がありそれを良いところは伸ばし、悪いところは修正することにより、少しずつ変化させていくことが大切で、その課程で文字の基本、構成、意味、筆の使い方などを覚えていきます、また継続することで習熟していきます、書の上達する方法はただ一つ書き込めば書き込むほど間違いなく上達します、上達すればする程奥が深いと感じるのも書の面白さでしょう。

初心者から上級者まで何方でも一度見学にいらして下さい。9 月には軽井沢の錬成会も予定しています。(平山正経記)

俳句部会

○ 5月20日(日) 第56回句会 中央公民館2F集会学習室

兼題「蓮」、「当季雑詠」各1句 席題「簾」1句

高得点句(3点句以上)

大の字になりて風呼ぶ青簾	橘 優治
故郷の縁側に居り青簾	三田 三(畔巢)
不忍の浮葉うねらせ日照雨過ぐ	神田 尚計
漆黒の唐墨の香や夏立ちぬ	神田 尚計 “
樟脳の匂い懐かし夏衣	比護喜一郎
窯あけの朝の茶柱風青し	三田 三(畔巢)

- 7月4日(日) 第57回句会 中央図書館2F小集会室
兼題:「炎昼」、「当季雑詠」各1句 席題「紫蘇」

高得点句(3点句以上)

青紫蘇のひだより落ちし虫軀	比護喜一郎
浴衣糊いつもききすぎ母のくせ	馬場 清彦
はぐくみし青紫蘇匂う夕餉かな	太田蔵之助(千雪)
炎昼や木陰伝いのまわり道	杉本 達夫
炎昼や都電軋みて千登世橋	比護喜一郎



<会員リレーエッセイ>

噴水広場

鈴木 文雄 (17年・高工建築)

早稲田の杜と私、そして戦争と私

私は昭和16年12月に早稲田の杜を巣立った男です。中高年代の方なればいまだ記憶にあると思います、あの・・・大東亜戦争勃発の日なのです。12月8日未明、米英両国に対し、宣戦布告をし真珠湾攻撃をしたニュースの「シーン」は今以って忘れられないと思います。結果は、世界の過半数の国々を相手とする第二次世界大戦へと拡大され、そして、昭和20年8月15日終戦を迎え、我が国は初めての敗戦を味わったのです。戦後の苦しい生活を国民全員が大なり小なり味わされたのでした。戦争中の特に南方作戦を思い出し、また記録の日誌を参考として以下筆をとりました。

戦争が本格化してくると、国民の日常生活に当然しわ寄せが起きて来ます。新聞やラジオ等で儉約、節約を促す標語が毎日のように何回となく国民の耳に入ってくるのです。「勝つまでは欲がりません」、「贅沢は敵だ」が合言葉として日常流れて来ました。物価統制令が発令され、物はだんだん少なくなり、ヤミ値が横行する等、国民の生活は次第に苦しい状態となって来ました。

軍隊(陸海軍)は、赤紙と言った召集令状で兵員の補充が強行され、学徒動員令、更に国民総動員法によって殆どどの男子は軍隊へ、女子は銃後の守りとして軍需工場に徴用され、滅私奉公の戦時体制が鮮明となってきました。

私は昭和15年9月、早稲田高等工学校建築学科在学中に陸軍軍属を志願しました。勤務地は東京代官町にあった東部軍司令部内経理部工務課でした。昭和18年4月「陸軍技手に任ずる」という辞令を受取った時は名誉を感じ、得意満面でした。翌5月突然、南方軍第二十六野戦貨物廠に転属を命ぜられ、準備もそこそこに、宇部港を発ち原隊のシンガポールに向かいました。当時の輸送は民間の船会社より提供をうけた(挑発した)貨物船、貨客船、客船で、飛行機による輸送は特別でない限りありませんでした。我々が便乗した船は三井船舶所有の貨客船「有馬山丸」総屯数9000屯で中クラスのものでした。軍関係のため外観の色彩は黒又はねずみ色のみで、一般民間の客船と天と地の違いがあって、暗い感じで、乗船時、不気味な気分になったものです。最下層のエンジン室を除いて、大広間に改修された客室には定員以上の兵がギッシリと積載されているように思われました。甲板の空間には便所、物置等が仮設され、甲板を歩くにしても仮設物が邪魔し、歩行も困難でした。2階、3階の客室(個室)は殆ど各部隊の将校連中が入室し

ており、我々同行の3名はその一室に便乗し、肩身のせまい感を味わったものです。

夕刻、地下エンジン室から発動機音が次第に大きくなり、船体が結構激しく震動してきて、いよいよ出帆と感じました。ドラの音もない淋しい船出でした。船窓から離れていく内地の山や野原、田園風光等との別れの淋しさを感じました。

航海の途中、食料や軍需品の補給のため台湾の台北港に停泊しました。物資の補給のみで人物の下船上陸は禁じられていました。

台北を離陸し、目的地シンガポールに向かった翌早朝、突然船が大きくふるえ、どどどん！と左舷、右舷に水柱らしい音が聞こえた。と同時に「敵潜水艦出現！」が船内のスピーカーから轟き渡った。直ちに将校、将兵、船員全員が備付のブイを装備し非常事態勢に入った。もう私は生きた心地がありませんでした。約一時間位と思う、船が沈没されるかもしれない恐怖にさらされながら、我々3名は互いに目と目を合わせて真っ青になっていました。やがて静けさが戻ってきました。わが軍(海軍)の駆逐艦が敵潜水艦に爆雷を投下した作戦が効を奏して、敵潜水艦は退散したとスピーカーより連絡放送され、先ずは一安心した次第でした。

一段落した後、船はシンガポールに向かって直行していると思っていたが、途中仏領印度支那領のサンチャゴに避難寄港した。フランス風の風景が目に入り、山や海辺、田園風景、建物が色彩鮮やかで、珍しさもあって、船窓から、甲板から見渡しながら、種々話題に花を咲かせたものでした。停泊は2〜3時間位だったと思います。再び目的地シンガポールへと航海を続けました。

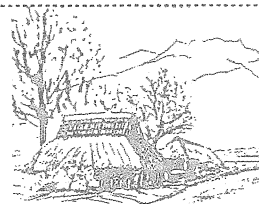
航海が漸く落着いて二〜三日位経った早朝、太陽が顔を出した頃、船窓からぼんやり陸地が見えてきた。間もなく、誰とでもなく「着いたぞ！着いたぞ！」の大声があふれ、大分賑やかな船内状態となりました。我々3名は早速甲板に出て着岸の状態を見守っていました。岸壁には、インド人兵士と見られる白いターバンを頭に巻いたドデカイ男が、手まねそぶりで着岸を誘導していました。上陸まで結構時間がかかるとのことなので、3名は甲板を歩きながら始めて見るシンガポールを眺めました。海岸線には南方独特の椰子の木がきれいに一直線に並び、椰子の実も鈴なりになって頭を下げ、我々の上陸を歓迎しているかのように見えました。何か嬉しさがこみあげて来たのです。

上陸したシンガポールは、船上から見たそれとは又違い、イギリス領らしさがあり何一つ見ても珍しく感じました。上陸に若干時間を要しましたが、我々3名は直ちに司令部担当部へ出頭し、到着の申告を上旨にしたのですが、応答なく3名とも控え室で大分待たされました。一時間近く待たされたあげく、我々が加わる待望の原隊は既に2〜3日前にブーゲンビル島(ソロモン群島)に転進したことが告げられました。一瞬がっかりし、しばしばしい沈黙の時間を過ごしたものです。司令部の要人が現地と連絡を取った結果、「出来る限り早く転身するよう」とのことで、また輸送船でブーゲンビル島へと航海の旅を続けることになったのです。官費旅行は命がけです。

ソロモン、インドネシア(ジャバ島)パラオを経由してのブーゲンビル島の話はまた次の機会にゆずらせて戴きます。

会員の声

美しい地球環境を末永く後世に継承しよう！



川俣 榮一 (28年・理工)

人類の活動が大気中や河川に有害物質を排出するという公害が、社会問題となって世を

賑わしてからもう久しい。これらに対する初期の対策は、現状を把握し原因物質を究明して、これらに関わる有害物質の排出を規制することが中心的課題であった。

これに対してここ数十年、人口の増加や科学技術の著しい発展によって、排出二酸化炭素による地球温暖化現象およびフロンガスによるオゾン層破壊に代表されるグローバルな大気環境問題が重大な社会的関心事となっている。さらには、硫黄酸化物および窒素酸化物などの大気汚染物質に起因する酸性雨によって、湖沼・河川・土壌等を酸性化し魚類や森林に悪影響を及ぼす事が懸念されている。これらは動植物の生態系や地球の有限な環境容量を脅かすまでに増大し、様々な自然的・社会的要因が複雑に絡み合っている。しかも、その影響は極めて長期的であり、かつ広範囲に及ぶためより深刻である。

ご承知の通り、私達の住む地球は太陽系内で生命を育む只一つの素晴らしい天体(惑星)である。45億年前の地球誕生以来、長い年月を経て数多くの奇跡的偶然性の中から、今日のこの素晴らしい地球環境が形成されたという経緯がある。人と自然が共生する快適な環境を確保し、これを末永く後世に継承することは現世代人類の基本的な義務である。

今日の危機的にある環境問題を解決するには、緑地・湧水保護や廃棄物処理ばかりではなく、地球温暖化・オゾン層破壊防止・酸性雨などの地球規模環境問題にも長期的・科学的に眼を向けつつ、異なる立場から環境にかかわりを持つ行政・企業・住民がそれぞれの自覚と主体性をもって分担努力し、他の主体の分担努力を相互に補填し、円滑に協調連携することが不可欠である。これにより人と自然が末永く共生し得る良好な生活環境を構成し、これを末永く後世に継承するため、行政・企業・住民のより一層の努力が期待される。

東稻広報室



○元当会会員、千葉弘さんが「瑞宝単光賞」を受賞。同氏は東久留米市消防署に在任中、消防の業務に精励されるとともに関係諸団体の要職にあり、救急救命の発展高度化に寄与された。現在は所沢市に在住。

<訃報>

- ・当会会員 宮崎 昂氏(29年・政経)が4月29日 急性肺炎のため急逝されました。
 - ・当会会員 米光慶二郎氏(36年・文) 令夫人典子さまが5月11日逝去されました。
- 同夫人は当会太極拳部会に所属し活発に活動されていました。
- 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

〔編集後記〕最近、思うことが夙に多い。○独立記念日の米大統領の演説を聞いて、Martin Luther Kingの言葉を思い出す。曰く、「私たちは兄弟として共に生きることを学ばねばならない。そうしなければ愚か者として共に滅びるだけだ」。なんと両者の格差の大きいことか。○殺人欠陥自動車がハイウエーを疾走していく。己の名誉や生活が、他の一般人の命より重いと言うことか。○絶滅が心配されたパンダの出生率がこのところ上昇してきた。が、肝心の日本人の出生率は更に減少傾向にあり、ついに1.3を割り込んだ。老いも若きもいつまでも壮健で恋をし、戦中よろしく「産めよ増やせよ」と唱えるのは不謹慎か。○来る11日は参議院選挙の日だ。心して投票しよう。